

しがの農 × 福通信

令和5年(2023年)12月第22号

発行者：滋賀県農政水産部みらいの農業振興課

農業は農産物の生産活動以外に、癒しや安らぎをもたらす機能、身体能力を高める機能、地域の結びつきを強める機能があると言われており、リハビリや生きがいづくりを目的として、高齢者福祉施設や病院等でも農福連携の取組が進められています。今回は、農業者と高齢者向けグループホームが共同で行う農福連携の取組をご紹介します。

みんなが笑顔になる「あつまれ！ぐるぐるの瀬田 秋の収穫祭」

今年10月、農業生産法人の株式会社ぐるぐるファームと洛和会ヘルスケアシステムが運営する洛和グループホーム瀬田が共同で企画した秋の収穫祭が開催されました。会場は、JR瀬田駅から徒歩15分ほどの場所にある洛和グループホーム瀬田です。

～洛和グループホーム瀬田～

認知症のある要介護者が共同生活住居において、家庭的な環境の中で地域住民との交流もしつつ、介護スタッフによる入浴、排せつ、食事等の介護、その他の日常生活上の世話及び機能訓練を受けながら生活する施設です。もっている能力に応じて可能な限り自立した日常生活を営む目的で提供される地域密着型のサービスです。取材時点では、18名の方が入居されていました。

～株式会社ぐるぐるファーム～

大津市で2023年に設立された農業生産法人です。代表の大石龍さんは2007年から13年間、洛和会の病院で看護師として働かれた後、高齢者や認知症の方を笑顔にしたいという想いから農業の世界に飛び込まれました。現在は、週に2日は洛和会の病院で非常勤として働かれ、それ以外の日は農業をされています。九条ネギを中心に栽培されていますが、農福連携の取組のためプランターでサツマイモやブドウ、ナス等も栽培されています。



プランター栽培サツマイモの収穫体験

～初めての挑戦！秋の収穫祭～

今回の収穫祭は、ぐるぐるファームと洛和グループホーム瀬田にとって初めてとなる農福連携のイベント開催でした。洛和グループホーム瀬田の利用者の方を対象に、ぐるぐるファームの大石さんがプランターで栽培されたサツマイモを収穫する体験と、畑で栽培された九条ネギの皮むき作業体験が行われ、6名の利用者の方が参加されました。サツマイモ掘り体験では、利用者の方は一生懸命に土を掘り、サツマイモを収穫できた喜びから自然と笑顔になっておられました。また、九条ネギの皮むき体験では、利用者の方は黙々と真剣に作業され、なかには皮むきの経験があり



秋の収穫祭のチラシ

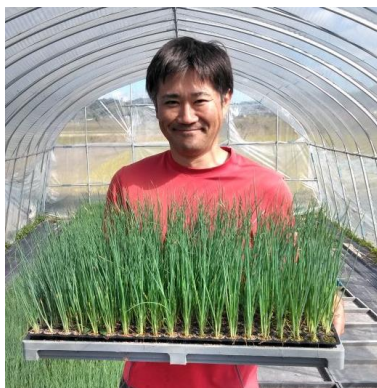
手際よく作業されている方もおられました。今回の収穫祭にはグループホームの職員の皆さんの他に、ぐるぐるファームの大石さん、洛和会の職員さん等、施設外の方が複数名参加しており、利用者の方にとって施設外の人と触れ合う特別な時間となりました。

洛和会介護事業部グループホーム課主席課長・塩見早人さんと洛和グループホーム瀬田の管理者・高橋育子さんは、今回の収穫祭について、「新型コロナウイルスの影響で、この3年間、施設外の人との交流が遮断されていたので、このような交流の機会はとてもありがたいです。大石さんと連携できたからこそ実現しました。」とおっしゃっていました。また、収穫体験は、収穫物があるため利用者の方がやりがいを感じることができ、さらに、収穫物を後日施設での食事に出したり、収穫祭の写真を施設内に飾って話題にすることで、認知症の方に収穫祭の日のことを思い出していただけるので、コミュニケーションのきっかけになるとおっしゃっていました。今後は、地域との接点をより多く持てるようにするため、地域の方にも収穫祭に参加していただけるよう企画したいと考えておられます。



九条ネギの皮むき作業体験

● 農業をツールに患者さん・利用者さんの笑顔を増やしたい



ぐるぐるファーム代表 大石さん

収穫祭を企画されたぐるぐるファームの大石さんは、病院で看護師として働かれていた際に、高齢者や認知症の患者さんが増加していることを感じておられました。そして、入院生活の中で、患者さんが意欲的にベッドから起き上がることが少なくなる様子を見て、患者さんに笑顔で過ごしていただきたいという想いを持たれるようになりました。そこで、病院内でデイサービス提供のプロジェクトを立ち上げ、塗り絵や折り紙等を患者さんに体験していただきましたが、患者さんはすぐに飽きてしまったり疲れたりしてベッドに戻ってしまわれたそうです。他に患者さんが意欲を持って取り組めることはないかと模索する中で、大石さんはオランダのケアファーム（介護と農場を併せ持つ施設で、認知症や精神疾患の方、発達障害の子どもたち等にデイサービス等を提供）のを知り、農業が効果的ではないかと感じられました。そして、日本に合わせた形でケアファームを実践しようと決意し、2020年に農業の世界に飛び込まれました。

大石さん自身は京都に自宅があることから、京都の伝統野菜である九条ネギに惹かれ、九条ネギを生産されている「こと京都株式会社」で2020年から2年半の研修を受けられました。その後、大津市に農地を借り、その地域の方々が大石さんの農福連携の取組に共感され、農地や農機具、倉庫等を貸してくださるなど、いろいろな方に支えられながら独立されたそうです。現在は、自社のほ場で九条ネギを25a栽培されており、大部分を「こと京都」に出荷されています。

● プランター栽培でケアファームの実践を目指して

大石さんは、ケアファームを実践するに当たり、移動可能なプランターを土と苗付きで施設等に貸し出し、農産物を生産する仕組みを試みておられます。プランターなら農地が不要で屋内の作業も可能であり、貸し出しにすることで施設職員の農作物の管理負担が小さくなると考えられたそうです。



プランター栽培のナス



九条ネギの収穫作業をされる大石さん

具体的には、大石さんがグループホームや病院の玄関前やベランダにナスやブドウの苗を植えたプランターを設置し、水やりや草取りを利用者さんや患者さんが担われています。大石さんは週に一度プランターを見回り、必要に応じて追肥等を行っておられます。現在、洛和グループホーム瀬田では水やりや草取りは一人の利用者の方が行っておられ、その方には「役割」ができています。しかし、他の利用者の方にも関わってもらうためにはどうすればよいのか、今後検討する必要があると、大石さんはおっしゃっていました。一方、病院の患者さんで、ブドウの実が色づいて

いくのを見たくてベッドから自ら出るようになり、リハビリにつながったということもあるそうです。

また、今回の収穫祭で行った九条ネギの皮むき作業による農福連携の取組も、拡大していかれる予定です。今年11月からは、地域の人が集まって楽しく九条ネギの皮むき作業ができることを目指して、大石さんが生産した九条ネギの一部の皮むき作業を、グループホームの利用者の方へ依頼し、大津市内の小中学校の給食に提供する取組も始められました。来年には栽培面積を50aに拡大し、利用者の方が皮むきをしたネギを、ほ場近くの給食センターへ出荷される予定です。

● ぐるぐるファームが目指す姿

大石さんは、大石さんのお父さんが描かれた右の写真の絵のように、プランター栽培をする施設に利用者の方や地域の大人、子どもなど様々な人が集まって交流し笑顔になる場をつくることを目指し、日々試行錯誤して奮闘されています。

今回の収穫祭は、その第一歩であり、このような取組を、洛和会の施設全域に展開していくことを目指されています。さらに、洛和会には介護や医療の分野だけでなく、教育や保育の事業もあることを活かし、様々な分野、場でプランター栽培を活用していきたいと考えておられます。そのために、プランター栽培の活用法をより一層考えていく必要があります。そのために、大石さんと洛和会で連携して話し合いを進められています。



大石さんのお父さんが描かれた絵

<お問い合わせ先>

● 株式会社ぐるぐるファーム

住所：〒607-8076 京都市山科区音羽役出町 37-20
TEL：090-6424-5543



ホームページ

● 洛和グループホーム瀬田

住所：〒520-2141 滋賀県大津市大江 3-6-5
TEL：077-544-3190

受付時間 9:00~17:00

※日曜日・祝日を除く



ホームページ

～滋賀県みらいの農業振興課からのお知らせ～

「しがの農×福ネットワーク」の会員（個人・団体等）を募集しています！⇒

